

飯豊連峰実川支流 大持場沢

佐藤 伸也

■山行年月日:2023年9月2日

■メンバー:大竹幹衛、阿部満孝、
佐藤伸也

■コースタイム:

実川集落跡 7:00～砂防ダム上部 8:30
～ 大持場沢出会 9:00～F1 19:15～沢
分岐・F2 9:45～F3 10:00～F5 11:15～
下降開始 11:45～実川出会 13:15～実
川集落跡 14:15



大持場沢 F3

9月になっても異常な猛暑は衰えを知らない。先週の尾瀬小淵沢に続いて今週も「涼」を求めて、飯豊の実川へ入ることになった。

6時に西会津のコンビニで待ち合わせをして実川に向かう。40年ぶりに訪れたが、実川集落が完全な廃墟になっていたことにショックを受ける。民家跡を通り過ぎたところの空き地に車を置き、実川本流へ入渓を試みる。どこも絶壁で降り口を見つけるのに苦労するが、懸垂下降で何とか巨大な砂防ダム直下に降り立った。そこから30分以上かけてダム左岸を高巻きして本流へ戻る。8時50分に大持場沢出会いにたどり着いた。

登り始めるとすぐにF1(10m)が現れる。ザイルで確保しながら左岸を登る。次の6mの斜滝(F2)を難なく越すと、沢の合流地点に到達する。水量は3:1ぐらいだろうか。どちらの沢もすぐに連瀑となる。勿論本流の左俣の滝を進む。(F3, 4)。いつも絶妙なリードで我々を引き上げてくれる幹衛さんだが、スラブ状

でややハング気味のF4ではかなり苦労しながらもアブミを駆使して何とか滝上部まで導いてくれた。

難所を越すとまた、5m、8m(F5、F6)の滝が連続する。右岸の滑りやすい急斜面を慎重に高巻きして滝上部に降りる。両岸が狭まった上部を見上げると、深い淵を持った大小4つの滝が続く。その上もさらに滝が連続していることが容易に推測できる溪相だ。ホールドもなく直登りは困難で、高巻きするとしても尾根までは高度差がありかなりのアルバイトが強いられそうなので遡行はここまでする。11時半に下山を開始して、4～5回の懸垂下降を繰り返し、時には滝壺で泳ぎながら溪地点へ戻った。

当初は「納涼沢登り」的な安易な気分で参加したが、支流とはいえさすがは飯豊の沢だ。甘い気持ちはすぐに消えた。遡行距離は短かったが、両岸が切り立った溪相と滝の連続に圧倒されながらも、暑さを忘れて沢登りの魅力を十分に堪能することが出来た有意義な沢旅だった。